

開けたり閉じたりを繰り返していきました。「ドドド・ドドド・ドドド・ド」というリズムで鳴らすと、目をうつすら開け聞いていました。少し時間を空けて、もう一度同じリズムで鳴らしました。今度は、先ほどよりも目を大きく開けて聴いていて、音の響きをしつかり捉えているように感じました。再び少し時間を空けると、目をキョロキョロ動かし、音が止まったことを感じていたように感じました。音が止まっても、集中が途切れずにいるようでした。最後にもう一度、同じリズムで鳴らし、じつと聴いていました。2回、3回と繰り返す中で、音の響きに気持ちを向け、「ドドド」という音のかたまりと、音が止まったことを感じているようでした。

**ほくとの  
日常活動紹介**  
竹内 眞美

Aさん(横地分類A4)は、ビニール袋のような触れるとガサガサと音が出る物を好んで持っていて、擦るようにして音を出したり叩いて音を出したりしています。キーボードや太鼓などの楽器は、表



情を緩めながら力強く叩いて音を出しています。キーボードを使って手操作の活動をしています。キーボードで職員がド・ミ・ソ・ドと一音ずつゆっくりと音が重なるように音を出すと、音の響きや重なりを感じて表情が明るくなります。職員がキーボードを鳴らす手先にも注目し、音が鳴り終わると一息つくように「はあ」と表情を緩めます。職員が鳴らすのを止めると次を催促するように、職員の手を掴んで鍵盤まで誘導することもありました。今度はAさんの手をとって一緒にキーボードの鍵盤に触れ音を出すと、音が鳴るまで真剣な表情で手に注目し、音が鳴ると表情を緩めてます。何度か繰り返ししていると、Aさんが鍵盤を自分で押して音を出したり、押している手を広げて違う音を鳴らそうとするような様子がありました。

普段キーボードを叩いて音を出すときは、叩くことに意識が向いていて音に注目することはありませんでした。しかし一緒に鍵盤に触れ音を出す時には、触れたことで音が出ることに注目し、触れ方や操作の仕方を変えたことで違う音が出ることに楽しんでいくようでした。

Bさん(横地分類A4)は、触れると音が鳴る素材を触って感覚を楽しんだり、素材で床を叩いて音を出したりしています。

車の形をした木の素材をスロープに乗せると車が滑り降りていく「わくわくスライダ―」という道具を使った活動をしています。職員が箱からわくわくスライダ―を取り出し、車をスロープに乗せ滑らせようとすると、期待するよう注目して見えています。車がスロープを上からジグザグと左右に滑りながら降りていき、最後に床を走っていく動きを最後まで注目し、止まると職員と視線を合わせ表情を緩めています。職員が何度かやっているのとBさんが車をかやっているとBさんが車をスライダ―に乗せ、表情を緩ませながら繰り返し行っていました。スライダ―に乗せると車が滑るように降りていき最後に床に走るようになってく

**ひかりの子の  
日常活動紹介**  
川上 恵

るといふ動きに面白さを感じ、自分でもやってみたいという気持ちに繋がっているようでした。

Aくん(6歳男児、横地分類B1、握り、離しは可能だが対象物に手を伸ばして掴むことは困難)は、2歳の頃からひかりの子に通っています。今はBくん(6歳男児、横地分類B6、対象物に手を伸ばして掴むことは可能)と一緒に食べる真似をしたりして遊ぶ事が大好きです。4歳の頃は動きのあるBくんの行動を追って見ていることが多くありましたが、一緒に遊ぶことはありませんでした。Bくんと一緒に遊び始めたのは、5歳の頃です。初めはBくんが食べ物の形をした物を切ったり、「おいしい」と言って食べる真似をしたりして遊んでいるのを興味深そうに見ていました。そのことに気付いた保育者はそのため、Bくんがままごと遊びを始めたときは積極的にその場に入るようにしました。Bくんは食べ物の形をしたものを切ると、皿に乗せて職員に渡しました。受

け取った職員は食べる真似をし、「おいしいね」「ありがと」とやりとりした後、受け取ったものをAくんの口元に持っていきようしました。Aくんも大きく口をあけて食べる真似をしました。初めのころは、同じ場所ですべていでも、それぞれ別々のことをして遊んでいました。同じ場所ですべて遊ぶことを続けていると、Bくんは自分が切った食べ物の形をした物を皿に乗せると、職員に渡して「Aくんにあげてほしい」と要求するようになりました。少しずつ職員を介して一緒に遊ぶようになってきました。AくんもBくんがままごと遊びをしているのを見つけると、視線を向けて呼ぶように声を出すようになりました。そのうちに職員が間に入らなくても2人で遊ぶようになってきました。Bくんがままごとあそびの道具を持ってくるとAくんは喜



べていでも、それぞれ別々のことをして遊んでいました。同じ場所ですべて遊ぶことを続けていると、Bくんは自分が切った食べ物の形をした物を皿に乗せると、職員に渡して「Aくんにあげてほしい」と要求するようになりました。少しずつ職員を介して一緒に遊ぶようになってきました。AくんもBくんがままごと遊びをしているのを見つけると、視線を向けて呼ぶように声を出すようになりました。そのうちに職員が間に入らなくても2人で遊ぶようになってきました。Bくんがままごとあそびの道具を持ってくるとAくんは喜